

校訓	真善美	令和7年度 学校だより	発行日	令和7年12月25日
教育目標	自ら考え、協働し、共に未来を 創造する生徒の育成 -認め合う心 確かな学力 健やかな心身を育てる-	「荒中だより」 12月 師走 第18号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 二宮 啓二

## 令和7年度 2学期終業式 式辞

残暑厳しい夏に始まった2学期は、穏やかな実りの秋を経て  
たくわ蓄えの冬へと移り変わりました。5か月にまたがる2学期も、  
今日で終わろうとしています。

皆さんはこの2学期、失敗を「成功のための学び」ととらえ  
新しいことにチャレンジすることができたでしょうか。



9月に行われた体育大会では、皆さんが力いっぱい、そして表情豊かに競技や演技に取り組む姿を見ることができました。また、学習発表会では、クラスが一つになり、美しいハーモニーを響かせてくれました。

そうした行事の中で、常に先頭に立ち、手本を示してくれたのが3年生です。3年生の背中を1・2年生が追いかける、今の荒牧中学校の姿は、学校として本来あるべき姿であり、私はとても誇らしく思っています。

また、朝、校舎を回っていると、2年生の朝の会の整然とした空気に感心させられます。一日の始まりに、やるべきことを着実に<sup>せいぜん</sup>行う姿は、とても頼もしいです。

1年生は、明るい挨拶や優しい声かけが印象的です。しんどそうな人に自然と声をかける、その素直さや優しい心を、これからも大切にしてください。

そんな良いところがたくさんあった2学期ですが、今学期、物がなくなったり、物が壊れたりする出来事がありました。もしかすると、自分には関係ないこと、たいしたことではないと感じた人もいるかもしれません。しかし、私はとても残念に思っています。なぜなら、その出来事は、物そのもの以上に、「人を信じる気持ち」を傷つけてしまうからです。

当たり前そこにあるはずの物がなくなったとき、人は不安になります。「どうしてだろう」「誰かに何かされたのだろうか」と、その不安は静かに心の中に広がっていきます。不安が大きくなると、相談に乗ってくれる人の言葉も、隣の人の声かけも、自分自身のことさえ信じられなくなり、心が押しつぶされそうになることだってあります。自分自身が、あるいは隣にいる人や家族が、そんな思いをしていたらどうでしょうか。少し立ち止まって考えてみてください。

荒牧中学校は、誰もが安心して過ごせる学校、人を信じ合える学校であってほしいと心から願っています。友達を疑わずに過ごせること、安心して教室で学べることは、当たり前のように、とても大切なことです。物が守られるということは、人が大切にされているということでもあります。

そのために必要なのは、何も特別なことはありません。一人一人が、相手の立場や気持ちを想像し、思いやりを行動に移すことです。みなさんならきっと実現できると信じています。

さて、昨日は大掃除を行いましたね。年末に大掃除をするのは、日本に古くから伝わる風習です。一年分の汚れを落とし、新しい年に家にやってくるとされる歳神様としがみを迎える準備をし、新しい気持ちで新年を迎えるためだと言われています。



皆さんも、新年を迎えるにあたって、この一年を振り返り、新しい年への願いを込めて「大掃除」をしてみてください。今日は、特に大掃除をしてほしい場所を三つお話しします。

一つ目は、「自分の周りの大掃除」です。教室や家で使っている机の上や机の中など、身の回りを整えることです。周りが片付くと、気持ちもすっきりします。

二つ目は、「自分が過ごす場所の大掃除」です。自分の部屋や家族が集まるリビング、学校であれば教室や部活動で使う場所です。みんなで力を合わせてきれいにすると、その達成感や喜びも大きくなります。

三つ目は、「心の中の大掃除」です。この一年で頑張れたこと、できるようになったこと、反対に、うまくいかなかったことや、振り返ってみて反省したい自分はいなかったかを考えてみてください。頑張った自分は、しっかりと褒めてあげましょう。それを自信につなげてください。そして、後悔や反省はここで区切りをつけ、来年に持ち越さないようにしましょう。

「一年の計は元旦にあり」と言います。新しい年には気持ちをリセットし、新たな目標を立ててください。特に3年生は、進路が見えてきた今、自分の決めた道を信じ、迷わず、一步一步進んでください。すでに進路が決まった人も、新たな目標に向かって歩みを始めましょう。

最後に、3学期の始業式には、皆さんが元気な姿で登校してくれることを願い、2学期終業式の式辞といたします。